

# 企業行動変容を通じた資源循環モデルの社会実証を開始

## 会議・来客時の容器選択を起点とした実装検証

株式会社斗々屋（本社：京都府京都市、代表取締役：梅田温子）は、企業活動における使い捨て資源の削減および資源循環の促進に向け、日常業務の中で実行可能な「行動変容モデル」を構築・検証する社会実証事業を開始いたします。

本事業は、企業における日常的な購買・利用行動の転換を通じて、資源循環を実効性のある形で実装することを目的とした取り組みです。

### ◆背景

GX（グリーントランスフォーメーション）やサーキュラーエコノミーの重要性が高まる中、企業による環境対応は加速しています。

一方で、資源価格の変動や供給の不確実性の高まりを背景に、化石資源由来の使い捨て容器（PET ボトル等）に依存した従来の利用構造は、環境面に加え調達面においても見直しが求められています。

しかし企業現場においては、

- ・どこから着手すべきか分からない
- ・日常業務の中で実行可能な具体策が少ない
- ・コストや効果の見通しが立てにくい

といった課題があり、取り組みが実運用に至らないケースも多く見られます。

特に、会議・来客・イベント等で日常的に使用される飲料容器については、使い捨て容器の利用が慣習化している一方で、見直しによる廃棄物削減・資源循環の余地が大きい領域であるにもかかわらず、現場で実行可能な転換モデルが十分に提示されていないのが現状です。

## ◆事業概要

本事業では、企業活動における「会議・来客・イベント等での飲料提供」という日常業務に着目し、容器選択の転換による資源利用の最適化を検証します。

具体的には、これまでペットボトル等で提供されてきた飲料を、資源循環性の高い容器へと置き換え、実際の運用の中で以下を検証します。

- ・廃棄物削減効果
- ・CO<sub>2</sub>排出量の変化
- ・運用負荷および継続性
- ・従業員の行動変容

本実証では、資源循環性の高い容器の一例としてアルミ素材の飲料容器を用いた運用を実施し、企業現場における実装可能性および継続性を検証します。協力：株式会社ジャスティス

また、大学等の教育・研究機関においては、学生主導によるキャンパス内での運用実証も想定しており、大学生協等と連携した一定期間の容器選択の転換を通じて、廃棄物削減量の把握や、学生の行動・意識変容に関する調査（アンケート等）を実施します。

これにより、企業とは異なる環境における実装可能性や普及性についても検証を行います。



## ◆社会実証としての位置づけ

本事業は、特定製品の販売促進を目的とするものではなく、企業活動における資源利用の転換を実現するための「実装モデル」の構築を目的とした社会実証です。

企業が自らの業務の中で無理なく導入可能な形で資源循環を実現する仕組みを検証し、今後の制度設計や施策検討に資する基礎データの蓄積を行います。

## ◆検証内容

本事業では、以下の観点から実証を行います。

- ・容器使用量の変化
- ・廃棄物削減量
- ・CO<sub>2</sub>排出量削減効果
- ・運用コストと継続性
- ・従業員の行動変容および意識変化
- ・学生・従業員の行動変容および意識変化
- ・教育・啓発効果（大学等における学習的側面の検証）

取得データは可視化・分析を行い、資源循環施策の実効性を定量的に検証します。

## ◆実証協力企業・教育機関の募集

本事業の趣旨にご賛同いただき、実証にご協力いただける企業および教育・研究機関（大学等）を募集いたします。

主に企業における導入を想定しておりますが、補足的に大学等においても、キャンパス内での運用実証や行動変容の検証にご参画いただくことを想定しています。

対象：企業、大学等の教育・研究機関

用途：会議、来客対応、社内・学内利用、イベント等

導入規模：応相談

※本事業は社会実証としての運用を前提としており、導入にあたっては運用に必要な実費相当の費用負担が発生します。これは運用および提供に伴う対価に相当するものであり、収益確保を主目的とするものではありません。

## ◆スケジュール

・2026年5月上旬～中旬：準備期間

・2026年5月下旬～2027年3月末：導入～実証

## ◆メッセージ

本事業は、理念として語られることの多いサーキュラーエコノミーを、企業活動の中で実装可能な構造へと転換する試みです。

日常業務の中で小さな選択の積み重ねが、社会全体の資源利用の在り方を変えていくと考えています。

---

## 会社概要

株式会社斗々屋

所在地：京都府京都市出水町 251 大澤事務所ビル 1F

代表取締役社長：梅田温子

株式会社斗々屋は京都でゼロウェイストスーパーマーケットを運営し、量り売り販売、食品ロス削減、容器循環などの循環型小売モデルを実装してきました。

2017年の創業以来、「地球1個分の暮らし」の実現を理念に掲げ、ゼロウェイストの買い物体験を通じてサーキュラーエコノミーの社会実装を進めています。

現在は小売事業に加え、フランチャイズ展開や企業向け循環システムの提供を通じて、循環型ビジネスモデルの普及を目指しています。

コーポレートサイト：<https://totoya-zero-waste-fc.studio.site/>

---

## ■ 本件に関する問い合わせ

株式会社斗々屋 広報担当 清藤

Email：[info@zerowaste.co.jp](mailto:info@zerowaste.co.jp)

TEL：075-221-8282

協力：株式会社ジャスティス 後援：京都市